月刊
立川と語ろう　立川に生きよう
えくてびあん
3
<EKUTEBIAN VOL.10 MARCH 1992-EKUTEBIAN>
まい　あーと■押花
「お花畑」by 森山三枝

百人一首

—風雅＆スポーティー—

お正月のカルタ遊び程度かと思って「高松会館」へ行ってみたらどうして、どうして。44年の伝統を誇る『明静かるた会』は今年も緊張のなかに、風雅な空気をただよわせていた。カルタは古来からの「あそび」ではあっても、覇を競う大会ともなれば、過激なスポーツと云ってもいい程。それだけに、奥行きの深さも、また。

岡満由美先生。数すくない公認の読み手で、さすがに鍛えた美声が会場に満ちる。

山下怜司画伯は五段という練達の人。また長年、子供たちへの熱心な指導も。

荻野芳廣会長。青年時代から熱中したカルタ道。明静かるた会の大黒柱。

あどけない少年少女の表情のなかに、百人一首の全てがインプットされている。

まだ覚えたての子から、全国レベルの選手まで、厳しい中にも平安の雅が漂い。

立川の星・丸井美奈子ちゃん（右）はまだ小学４年生。昨年は全国大会にまで進出して、カルタ界に大きな一歩を踏み出した。

▲雨の日も風の日も30年間走り続けているロングランナーの野村忠蔵・フクご夫妻

ベスト立川人・展

――今年も立川スピリット生き生き――

何か、変わったことをした人というより、周りの人の気持ちを明るくした人。こういう「立川人」を丹念に訪問、取材した、ベスト立川人・展'92も盛大のうちに終ったが、登場の立川人は、既に今後の活躍も進展中。早くもベスト立川人は走り続けている。
来年の『ベスト立川人』に選ばれるのは、あなたかもしれない!?

▲ベスト立川人・展 会場入口

●オープニングパーティーも盛大に行われ

会場の駅ビル7階「ウイルギャラリー」には、この一年、立川人の目と心をおおいに、優しく、温かく、なおかつ楽しくしてくれた方々の笑顔が23枚のポートレートになってズラリ並んだ。

文学、スポーツ、芸術など色とりどりにブレンドされた、テーマ性のいい写真展であったという声もあった。

初日のオープニングパーティーでは、立川人展過去出場のOBも顔を見せて、和やかな交流がくりひろげられていた。

●ベスト立川人の今後の活躍

今月号の「百人一首」からみるように、立川市大山小学校四年生の丸井美奈子ちゃん(砂川町)は、その後、全国大会で3位入賞。

脳死研究家の下田晴雄氏(幸町)は、講演、テレビ出演と多忙の毎日。早くもベスト立川人は走り続けている。

活躍のグラウンドをさらに伸ばして、走っているからか、こうした朗報は、このところ続いて編集部に舞い込んでいる。

文学では、児童文学の野間文芸賞を受賞された、森忠明さん（曙町）。

美術では、日本イラストレーション展銅賞を獲得の坂東慶一さん（柏町）は、プロ顔負けの美大の学生。新宿住友ビルの大壁画のデザインを担当するなど、立川人が日本へ世界へ光っていく過程を見ているのも、同じ立川市民としてはワクワクするものだ。

スポーツでは、50代の部、水泳日本記録樹立の宮内勤さん（砂川町）が、この日、会場ではじめて会う同志の方にアドバイスしてあげたり、ベストファーマーの鈴木藤太郎さん（富士見町、95歳）が拓本名人の小川準一さん（曙町、91歳）に向かって、「あんたは、まだ若いんだから」と言う冗談も飛び交い、和んだ会場の様子は、立川文化を優しく温かく語っているようだった。

▲早くもカルタクィーンと噂される丸井美奈子ちゃんと画伯、山下怜司氏、全国大会3位の賞状を手に

▲ミス立川の3名もオープニングパーティーに出席

▲拓本名人、小川準一さん（曙町）

▲立川駅ビル7F「ウイルギャラリー」の会場

ことわざ問答㉔

漢字一字挿入せよ

一勝□敗は兵家（へいか）の常

□加減のひとり舌打ち

立川トピックス

ホワイトデーにひと工夫の中華菓子が登場

3月14日はバレンタインにチョコレートをもらった男性がキャンディーをお返しするホワイトデー。キャンディーばっかりじゃという女の子に、中華雑貨やアクセサリーなど知られる泰平産業（高松町2丁目）では、ピーナッツの風味が口いっぱいに広がる、珍味を工夫した、ピーナツケーキを売り出して、人気を得ている。中華菓子ならではのちょっとした新しい味と風味。場所は、五小の裏、高松町の山梨中央銀行の駅寄り2つ手前の路地を入ってすぐのところ。

ニュースプリングコンサート盛大に行われる

2月23日（日）、立川市市民会館大ホールにて、こどももおとなの楽しい音楽会、ニュースプリングコンサート（真如苑青年部主催）が盛大に行われた。冒険ミュージカルでタイトルは「時をつなげ！」〜新しい星みつけた〜ライラック村に、ある日、宇宙船がきた。そこから始まる5人＋Xの冒険。限られた時間は5日間。はたして「生命の泉」はどこにあるのか？冒険の先にあるものは？ETで見た時と同じように、宇宙人も地球人もお友だちになろうというもので好評であった。

立川クイズ

立川の街の広さ、大体どれぐらいだと思いますか？平成2年1月1日現在の統計によりますと、約24平方キロメートルとなっております。坪でないと実感がわかないという方は……どうぞご自分で計算なさって下さい。

その中に16の町があるわけですが、全部あげてみますと、富士見、柴崎、錦、羽衣、曙、高松、緑、栄、若葉、幸、柏、砂川、上砂、一番、西砂、泉となります。（一気に云えた人は、たいへん愛市精神に富んだ方といえます。）

では、この中で一番面積が広いのは、どこの町でしょうか？

【2月号の答】　正解は❶「はけ」というのは、がけのことです。立川の場合、富士見町から錦町にかけて、多摩川に沿って続くがけを「はけ」といいます。

真如苑だより

春というのは、そろりそろりとやって来るもののようです。まず、歳が明けると「新春」、二月にはいって節分の翌日に「立春」。ここまでは暦の上の春ですが、ひと月後には「本当の春」がやってきます。人々の表情がほころんでいる春の真如苑へお出掛けください

■日時　3月15日(日)　2時〜4時
■御本尊、真如宝物館をはじめとして映画など盛りだくさんの用意がしてございます。
■お申し込みは「えくてびあん・コンパニオン」（本誌を手渡してくれた人）へ。

表紙は語る

まい▲あーと　押花「お花畑」by 森山三枝

今回の作品「お花畑」は北海道の富良野に一面に咲いているラベンダー畑、そこに家を二つ置くことで夢を入れてみたかったというものです。

「実はこの作品、作ったのは、もう何年か前ですが花の色が未だに変色していないところが不思議な押し花の魅力なんでしょうか」と飾らずに語る作者の森山三枝さん（羽衣町二丁目）。きれいなものへの憧れから生け花をなさっていたがその先生の姉が押し花の先生であったことからこちらもされるようになった。お花畑から摘んで来たそのままのきれいな色で残せることに確かに感動を覚える鮮やかな色である。自分の家では見られないような花を見てみたい気持ちから制作。地方へ出かけたり、その充電にも飽くことがない。3月22日から23日まで羽衣町本町文化祭（於・中央児童会館）に出品。実物の前に立つとさらに鮮やかな押し花の魅力の香りまでかぐことができるかも知れません。

東風

胃を全部切りとってしまったと力なく笑う荻野芳廣さんであった。去年の秋、中央病院へお見舞いに行くと、術後は順調であったがどこか、ハラに力が入らないという風であった。それでも、病室にコンピューターを持込んでキーを叩いていたのは、さすがに精力家の荻野さんだ★八面六臂の活躍とは、荻野さんのためにある言葉のようだ。卓球ではご子息ともども全国級のスゴ腕だし、指導者としても長年つとめてこられ、市の体育協会長やスポーツ振興審議会長も長い。かと思えば、お諏訪さまで横笛を吹いている。これもまた荻野さんだ。先日、高松会館の「明静かるた会」へ行ってみたら、ここにも荻野さん。昭和24年から44年間、欠かしたことがないという。★カルタ取りは正月の遊びかと思ったら、夏冬を問わずの猛練習で夏は蚊帳（かや）の中でやったもんだと、ひとしきり、昔ばなしに花が咲いた。技術の話も少ししてくださった。百人一首というくらいだから読み札は百枚ある。その内「あ」で始まる札は16枚もある。一枚しかない札は7枚である。これは最初の音を聞いただけで、払っていい札だ。そして、下の句を読んで上の句が浮かぶようになる練習も大切と教えてくれた★会場では、蚊帳というものを一度も見たことがない幼い子供たちが、素早く札を払っていた★えくてびあん　得手は恋歌　かるた取

ことわざ問答答（天地逆に印刷）
一勝一敗は兵家の常
手加減のひとり舌打ち

(編集) 小川知子　隈川 理　中村絵里　原田悦子　半沢正弘　町田健一　山田恵子
(写真) 天野武男　板橋一明　井上義治　スタジオ269　桂川一巳　本多 修

月刊えくてびあん　第92号
平成四年三月一日発行
発行所　えくてびあん編集工房
東京都立川市柴崎町1-3-37-303
磐城ビル3F　〒190
電話　〇四二五(28)0082
FAX　〇四二五(28)1297
編集人　立井啓介
発行人　沖野喜男
印刷所　㈱大廣社

私の傑作選

NICE SHOT! NO.8

誰のアルバムにもキラリッと光る一枚がある。
撮れた／と思った。シャッターが軽い。

舟橋国雄さん
（錦町1丁目）
愛機➡オリンパス707
■四尾連湖　夏の終わり

比留間　裕さん
（高松町2丁目）
愛機➡ミノルタ α7xi
■桃の里